

第9回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年5月13日（火）

午後5時40分～7時

会場：塩尻総合文化センター 1階講堂

次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 新構成員・事務局員自己紹介
4. 会議事項
 - (1) 第8回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ
 - (2) 校地検討部会報告
 - (3) 学びのイメージについて
 - (4) 統合方法について
5. 諸連絡
 - 次回の予定
 - 【日時】 調整中
 - 【場所】 調整中
6. 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第9回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名 (座長○)	所属等	新構成員
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長	
2		○赤羽 高志	塩尻市教育委員会 教育長	
3		大池 昌弘	山形村教育委員会 教育長	○
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長	
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長	
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭	
7		林 修一	塩尻市観光協会 会長	
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授	
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長	
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長	
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進 部長	
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事	
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局 局長	○
14	同窓会	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会 会長	
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長	
16	P T A	桃井 則美	塩尻志学館高等学校P T A 会長	○
17		菱田 岳士	田川高等学校P T A 会長	
18		北沢 寿明	東筑摩塩尻P T A連合会 会長	
19	小中学校 関係者	吉越 秀之	東筑摩塩尻校長会 代表 (桔梗小学校 校長)	○
20		黒沢 幸喜	東筑摩塩尻校長会 代表 (丘中学校 校長)	○
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長	
22	再編 対象校	熊谷 のい	塩尻志学館高等学校 生徒代表	
23		中舎 水鏡莉	塩尻志学館高等学校 生徒代表	
24		浅川 夢羅	塩尻志学館高等学校 生徒代表	
25		小岩井 一	田川高等学校 生徒代表	
26		鈴木 脩也	田川高等学校 生徒代表	
27		池田 葵	田川高等学校 生徒代表	
28		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長	
29		今井 直哉	塩尻志学館高等学校 教職員	○
30		青木 裕士	田川高等学校 校長	○
31		笠原 勇貴	田川高等学校 教職員	○

事務局

網掛け 新事務局員

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		長野県教育委員会	
木下 博史	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	高校再編室推進室 主幹指導主事
今井 直哉	新校準備委員会構成員 (長)	笠原 勇貴	新校準備委員会構成員	荻原 洋平	高校再編室推進室 主任指導主事
寺澤 顕孝	新校準備委員会構成員 (副)	料治 正和	新校準備委員会構成員	宮嶋 直美	高校再編室推進室 主任指導主事
深澤和加枝	教務主任			佐久 浩信	学びの改革支援課 主任指導主事

◆塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

「学びのイメージ」 検討手順

新しい学校が目指す姿

- ・懇話会趣旨説明（第1回）
- ・全国の先行事例（第2回）
- ・2校の学び紹介（第3回）
- ・視察報告（第4回）

共通理解

- ・育てたい生徒像
- ・目指す学校像
（第4～8回）

新しい学校の中身

- （第4～8回）
- ・学びの柱
- ・どんなことができる学校
- ・特色あるカリキュラム
- ・魅力づくり

新しい学校の形

- ・設置課程、学科
- ・活用する校地、
- ・学びを実現するための施設
- ・想定する募集学級数 等

学びのイメージ



第8回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時	令和7年（2025年）1月28日（火） 午後5時30分から午後7時		
場所	塩尻市役所 5階大会議室		
出席 （敬称略、 ◎座長）	石坂 健一、◎赤羽 高志、根橋 範男、百瀬 司郎、太田 幸一、小松 稔、小林 敏一、中島 紀彦、横山 暁一、赤羽 誠治、霜田 美奈、押田 博、菱田 岳士、千村 哲朗、永田 寛尚、熊谷 のい、中舎 水鏡莉、小岩井 一、鈴木 脩也、池田 葵、堀内 雅司、宮入 清志、宮坂 幸登、守屋 秀行 以上24名		
欠席 （敬称略）	林 修一、渡邊 修、宮島 克夫 北沢 寿明、佐倉 俊、浅川 夢羅、以上6名	傍聴	7名、報道2社
事務局	塩尻志学館高校：丸山教頭（事務局長）、寺澤教諭、高山教諭、跡部教諭、鮎澤教諭、早川教諭 田川高校：内川教頭（副事務局長） 県教育委員会：原主幹指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事、樽沼指導主事		
会議事項	（1）第7回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ （2）学びのイメージに係る意見交換 （3）その他 提言		
当日資料	次第、第7回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ（案）、会議資料、生徒発表資料		

主な内容

- （1）第7回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ 質問、意見なし ➡ 承認
- （2）学びのイメージに係る意見交換
- ①新校の学びに関する生徒意見交換会の話し合いの様子を発表
- <田川高校>
- 生徒意見交換実施 1月10日（金）16：00～17：00 生徒会役員によるグループワーク
 - 出された意見
 - ・施設設備について
バリアフリーな学校、きれいなトイレ、たくさん物が入る大きなロッカー、アイス・パンなどの自動販売機
冷暖房がある休憩室、談話室、体育館、自習のできるカフェのようなスペース、大勢で使える自習スペース
 - ・授業について
意見の言いやすい授業、コミュニケーションが取れる授業、今までとは違う新しい授業の仕方、ゲーム式の授業
苦手分野をなくせる授業、科目の体験授業、お金の教育、マナー講座、校外活動、留学
 - ・目指す学校像
積極的に行動できる生徒、「前向きな」「活発な」プラス思考の生徒、自由度が高い学校、校則がない学校
全校生徒が校歌を歌える明るくて元気な学校、チャレンジできる学校、生徒が挨拶できる学校
部活の環境が整っている学校
 - ・行いたい活動
地域課題に取り組む探究学習、生徒が校則を決められる、季節ごとのイベント、生徒会での楽しい企画
動物の飼育
 - 話し合いの考察
学習に関することや、「できる」「話せる」「見つける」などの授業や日常的なコミュニケーションで活かせる活動への意見が多かった。目指す学校像や生徒のイメージでは、前向きで活発な生徒や自由な校風、施設設備が広い、きれいな校舎という意見が多かった。ロッカー、冷暖房、自動販売機など学校に欲しいものや、生徒会、部室、校舎などの学校の施設整備に関するものが多く出された。
 - 感想、全体のまとめ
 - ・塩尻新校をどのような高校にしていきたいかのイメージが自分なりに少しずつ固まって来て嬉しかった。
 - ・たくさんの役員で話し合えたからこそ、自分の中では出てこない考えを聞けて、とても参考になった。
 - ・今後も塩尻新校についてのワークショップを行えば色々と意見を聞くことができ参考になるのでまた行いたい。
 - ・可能であれば田川と志学館で合同のワークショップを行ってみたい。
- <塩尻志学館高校>11月18日（月）16：00～17：00 生徒会役員によるグループワーク
- 出された意見
 - ・目指す学校像
姉妹学級で仲良く学年を超えてみんなが仲のいい学校、学年関係なく学ぶ機会や縦のつながりがある学校
学年を超えたつながりがあると科目選択をする際の相談をいろいろな人とできる
個性を引き出せるような学校、個人の意見を尊重できる学校、多様性を重視する、普通にとらわれない自由度
いろいろな教科の授業がある学校、選択肢がたくさんある学校、専門の教科を増やして生徒の視野が広がる学校
総合学科ならではの科目を増やしてほしい、美術や家庭科、情報などの専門的な授業

- ・どんな学びがあったらよいか

科目選択で学びたい科目を必ず学べるようにしてほしい、普通科目と専門科目を両方学ぶことが総合学科の強み
専門的な分野をさらに学べる、外部の人や専門の人と関わる授業
就職したときに役に立つような IT 系の授業やメイクなど身だしなみの整え方の授業
グループワークやクラスメイトと意見交換をする機会が多い授業、話し合いや実践的な授業
地域に密着した授業、特産品を活用する、働いている人や資格を持っている人からしか学べないようなことを学ぶ
普通科ではできない経験ができるのが総合学科に来る最大の利点

②グループ質疑応答・意見交換で出された意見の発表

<Aグループ>

- ・総合学科はいろいろな挑戦をしている。それぞれが自分の道で、ベストな道を選ぶというのが一番理想。
- ・時間は有限なのでノートを取るだけの授業でなく、アウトプットを重視した学びを重視してもらいたい。
- ・アウトプットするということは大切だが、インプットも大切。多くの時間をとってほしい。
- ・小グループで話し合うことは横のつながりを深め、様々な考えを聞けるため有効。
- ・集団の中で困っている人を仲間としてどう支えていかなど、心のケアが大切。
- ・地域に出ているんな方々の知識をいただきたい。新校ができたのではなく、今からでもできることがあると思う。
- ・先生と生徒の距離が近く、相談しやすい環境にしてほしい。

<Bグループ>

- ・意見の中に生徒主体の授業と、先生と生徒の距離を近づけたいなどが出ていた。
- ・探究的な授業もあるが、双方向での授業作りが大切だと思う。将来に向けて、特に地域との連携や、地域に出での学びについての意見が多く出された。
- ・地域社会と関わることで成長を実感する場面が学校の外にもあることで、より自己有用感が高まる。
- ・学びのあり方をもう少し大きく捉えていく学校にすることが大事な要素だと考える。
- ・高校生の魅力、潜在能力を一緒に高めてもらいたい。

(3) その他 提言

<構成員(石坂 健一氏)>

○最初に

提言は個人としての提言で、塩尻市役所としてのオフィシャルな見解や塩尻市の副市長の見解ではない。あくまで懇話会の一メンバーとしての提案である。

○提言の背景

- ・データでは日本の18歳は国に対しても悲観的で、未来に対して良いイメージが持てていない。自分の自己肯定感、社会に貢献できるとか自分が社会に出て世の中をより良くする一員になれると思っている人も極端に少ない。学ぶための目的が見えないというのが今の子どもたちである。
- ・OECDが考える生徒エデュケーション2023、生徒に求める力に複雑で不確かな時代を歩んでいく力、新たな価値を創造する、対立やジレンマを調整できるとか、責任を取る能力がある。
- ・10代のうちに自分に自信を持ち、グロスマインドセットを持って主体的に取り組むことを身につけてほしい。
- ・塩尻市はスナバでN1道場、高校生の起業、自動運転やオンデマンドバスでデジタルにフォーカスし、キャリア教育のプログラムも一生懸命やっているが、さらに未来のために、教育機関のレベルアップは必要である。
- ・地域には教育の選択肢があることは重要で、再編の機会を戦略的進化的な再編にしたい。
- ・大学等の進路のための高校でなく主体的に学ぶ高校、小中学校の学びの深化、小中学校のときから自己肯定感、能動的な学び体得してもらいたい。

○提言

- ・選択肢として中高一貫校のようなことが検討のテーブルに上がってもいいのではないかと。目的意識の醸成、自分と向き合う時間を長く6年間を取れる。長野県の中学校の選択肢が増える。一貫性のあるカリキュラムが6年間で設計できる時間的な余裕がある。キャリア教育とか社会人の基礎力を中学の段階から学びコミュニケーションスキルを向上させられる。
- ・信州大学や企業と一緒にプロジェクトベースの学習が6年間の中でじっくりと設計できる。自動運転や、core塩尻、DXセンターでデジタルの分野のカリキュラムを提供ができる。信州大学ともゼミ、カリキュラムの協業、セイコーエプソンのラボでICTやデジタルを協業するというようなこともできる。八十二銀行の金融リテラシーや起業、事業継承のラボも一緒にできるのではないかと。
- ・新校で小学校、中学校の連携棟、ビジネス連携棟、大学連携棟のようなものがあったらよい。
- ・塩尻のアセットを使って6年間で国に対する期待感や自己肯定感、自分が世の中で何者になるかという目的や、自分探しをしてほしい。

座長まとめ

石坂構成員から6年間の学び、中高一貫校というような言葉もあったが、これに関しては県の教育委員会の考えもあると考えるので、次回に持ち越したい。➡ 意見質問なし

その他

【次回】 日時：4月下旬～5月中旬 会場：調整中

塩尻総合学科新校 学びのイメージ

➤ 育てたい生徒像

- ・自分の軸を持ち積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒
- ・豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒
- ・粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒

➤ 目指す学校像

- ・多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校
- ・地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
- ・生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校

学びの3本柱 ①多彩な選択科目 ②地域連携キャリア教育 ③ワクワクする学び

具体的な取り組み

① 教科を越えて広がる学びが新たなアイディア・価値を生む

【文理融合】(学際的な学びの系列)

【農業×福祉】(福祉施設、高齢施設との連携、園芸セラピー、アニマルセラピー)

【農業×食×ビジネス】(ワインを使った商品開発、マーケティング)

【体育×福祉】(ユニバーサルスポーツ)

【情報×農業】(スマート農業)ほか

② 「学んでみたい」がここにある(多彩な科目)人生を豊かにする学び

- ・表現を学ぶ 音楽・書道・美術・演劇などを通じた総合芸術
- ・言語を学ぶ フランス語、中国語、ハンガルの学びから積極的な国際交流
- ・感性を学ぶ アート、クラフト、アーティストとの創造活動
- ・ITを活用した学び(情報発信、プログラミング、マルチメディア)
- ・スマート農業、塩尻市・EPSONとの連携

③ 地域連携～地域とつながり、地域に開かれた学びの場～

- ・地域連携によるキャリア教育の充実
⇒塩尻市共学共創コンソーシアムとの連携、地域課題を学ぶインターンシップ・プロジェクト推進。
- ・小中高連携による探究・学習支援
⇒小中学生との合同ゼミ、探究活動の継続、高校生による学習支援。
- ・地域資源・企業との協働による実践的学び
⇒農園・福祉活動、ワインバレー参画、地元企業・DXセンター等との連携活用

学びを支えるしくみ

① のびやかに学ぶ環境

- ・校外学修や個別探究を支える柔軟な教育課程の整備(校外学修の単位認定、ゆとりある時間割設計)、ICTを活用した多様な学びの推進(遠隔授業配信に対応するICT環境の整備)
- ・快適で柔軟に使える学びの空間の整備(生徒交流や地域連携活動にも対応できる施設・設備の充実)

② クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある～生徒が主人公「私は私の人生の当事者」～

- ・主体的な学びと成長を支える教育環境の整備(探究的・アクティブな授業、少人数選択授業、ICTを活用した柔軟な学び)
- ・共に学び支え合うコミュニティ形成と生徒主体の学校運営の推進(生徒同士の教え合い、縦割り・異学年交流、サポーターズシステムによる個別支援、生徒会・自治活動の活性化、部活動を通じた探究的・規律的な学び)

③ 地域共創コンソーシアム

塩尻総合学科新校 学びのイメージ

学校のコンセプト、特徴、特色 こんなことができる学校

育てたい生徒像 自分の軸を持ち積極的に創造し、探究しチャレンジする生徒
豊かな心を持ち他者を尊重できる生徒
粘り強く学び続け、自分の道を切り開き、世界に羽ばたく生徒

目指す学校像 多様な経験、学び、人との出会いを通して一人一人の可能性を広げられる学校
地域を学びのフィールドとして地域との共創を目指す学校
生徒が主人公となり、社会と生徒とともにつくり成長し続ける学校

学びの柱 多彩な選択科目から、自らのキャリアをデザインする。地域と連携しキャリア教育の充実
自分の興味を掘り下げる 仲間と共に学びを深める、フィールドで学ぶアクティブな学びのスタイル
～広がる学び、深める学び、わくわくする学ぶ楽しさ～
つながる学校、つなぐ学校 学びと人が繋がりに未来へ繋ぐ学校 ～学び・仲間・地域・未来～

◆1 教科を越えて広がる学びが新たなアイデア・価値を生む
【文理融合】（学際的な学びの系列）
【農業×福祉】
（福祉施設、高齢施設との連携、園芸セラピー、アニマルセラピー）
【農業/食/ビジネス】
（ワインを使った商品開発、マーケティング）
【体育×福祉】（ユニバーサルスポーツ）
【情報×農業】（スマート農業） ほか

◆2 「学んでみたい」がここにある（多彩な科目）人生を豊かにする学び
○表現を学ぶ 音楽・書道・美術・演劇などを通じた総合芸術
○言語を学ぶ フランス語、中国語、ハンガルの学びから積極的な国際交流
○感性を学ぶ アート、クラフト、アーティストとの創造活動
○ITを活用した学び（情報発信、プログラミング、マルチメディア）
スマート農業、塩尻市・EPSONとの連携

◆3 地域連携
地域とつながり、地域に開かれた学びの場
○塩尻市共学共創コンソーシアムと連携したキャリア教育の充実
○地域課題を学べるインターンシップ、地域連携プロジェクト
○産業社会と人間、総合研究を通じた地域課題解決の取組
○塩尻市小中学校との連携（塩尻市教育委員会との連携）
・小中学生との合同ゼミ活動
・小中学校からの探究の継続
・高校生による小中学生への学習活動の支援
○地域の人とつながる（農園、福祉）
○地域企業、産業との連携
・桔梗ヶ原ワインバレーへの参画、産学官連携のワイン醸造に係る取組
・エブソン、地元企業との交流を通じた活動
○塩尻市DXセンター、県総合教育センター、ワーキングスペースの活用
○シチズンシップ教育の推進

学びを支えるしくみ

◆ クラスを越えて出会える活動の機会、活動の場所がある
生徒が主人公 「私は私の人生の当事者」
仲間と共に支え合い、ひとりひとりが成長できる
○探究的でアクティブな授業や主体性のある学び
○生徒同士の教え合い（共助） 失敗しても学び続けられる雰囲気
○縦割り活動や異学年交流の機会（生徒同士のサポーターズシステム）
○学年を越えた探究活動
○多様な生徒の心のケア 一人ひとり居場所の確保
○ICTを活用した多様で柔軟な学び
○少人数編成の選択授業 生徒の希望を叶える講座編成
○安心して相談できるサポーターズシステムの充実
全職員が一人ひとりのサポーター（生活支援・学習支援）
○生徒会活動をはじめ自治活動が盛んで、生徒が参画する学校運営
○探究活動にも通じる部活動 規律の学び、趣味の探究

◆のびやかに学ぶ環境
○幅広い校外学修を単位認定できる教育課程
○自分の学びをデザインしたゆとりある時間割
○遠隔授業が配信できるICT環境
○快適な学びの空間（施設・設備）
・生徒交流、地域連携などの学びに合わせて柔軟に使えるスペース

地域共創コンソーシアム

載せたいキーワード *普通のその先へ！学校はオモシロイ *キャリア教育
*個に寄り添った、個別最適な *自己肯定感
*教員も日々成長し学び続ける学校

「どんなことを学べる学校にしたいか ～具体的な学びの内容や取り組み～」 Ver.2

* 赤字：追加した項目 具体的な項目に下線 / 下線 : 具体的な取り組み

■多様な学び人との出会い（内容、活動）

多様な学び、科目	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストなど専門家と共に創作活動ができる、<u>アートやクラフトの学びを取り入れる</u> ・いろいろな外国語、多彩な科目、国際交流の推進、探究的な取組、ディベート ・情報発信・情報サイエンスが学べる、Steam教育、IT・デジタル、できれば工業が学べる→情報活用 ・プログラミング、マルチメディアなど情報を学ぶ ・ビジネス・情報系列の拡大（充実） ・ブドウ収穫などの多くの生徒が参加できる学校独自の活動を残してほしい ・農業を大切にしたい。食や健康の領域まで視野に入れた学び ・趣味を学べる学校、趣味がつくれる学校 ・興味あることをとことん学べる科目
基礎の充実	・1年次に基礎基本（特に5教科）をしっかりと学び、それが土台となり、社会に出てから成長する基となる
学びの深化	・1年生でしっかりと基礎基本を学び、 2・3年生で選択科目を学び選択の幅を広げ 、興味を持ったものを学ぶ
多様な選択肢	・生徒が好きなことを見つけられる、好きなことが学べるように 選択の範囲を広げる
柔軟な選択	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を広げることも大事 ・大学の授業選択をイメージ ・科目選択を柔軟にできる・進路実現における多様な科目が取れる
単位認定	・ 校外での学習 に係る単位認定
学びのスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が教えあうことで学びにつながる ・動きのあるアクティブな授業や主体性のある学びを実施していく ・オンライン授業やインターンシップなど積極的に外に出ていく
個別最適な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・特性として学びにくさを持っていても、自分の得意なことを伸ばすことのできる学校 ・休みの場、特別視されない場所があると良い、中高接続のための特別支援の充実 ・自由な学びの形・休む時間を個々に決められる ・学ぶ場所や居場所を選べる学びのスタイルがあるとよい
学びの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで学習できるスペースや ・グループに分かれて少人数で学べるフレキシブルな学習スペースなどの環境 ・本物に触れて学習できる環境 ・探究活動ができる施設、指導者がいる
人との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の人の話を聞きあこがれを持ち、自分探しをする中で目標が見つけれられる ・科目選択や進路にあたり、卒業生、先輩方から話を聞く機会を増やしてほしい ・異なる学年の生徒が一緒に学んだり研究したりする授業があるとよい
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動も多様性、部活動も活発 ・やりたい部活動など人を集めればすぐに作れるようにしたい
可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代から自分のやりたいこと好きなことを見つけられる学校 ・得意を伸ばせる

■地域と共創

地域の特色	<ul style="list-style-type: none"> ・塩尻市のユニークな部分を活かす ・県内のみならず、全国的にみてもユニークな教育ができるのではない
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、県総合教育センター、地域のいろいろな方が参画できる学校 ・塩尻市DXセンター、県総合教育センターと産学官民、新校が連携した教育
学びのフィールド	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て学びができる学校 ・生徒が地域に関わる意識を持つ ・学校を飛び出して人や社会と繋がる学びの展開から人に伝えたくなり、コミュニケーション力をつける学校 ・土曜日もオンラインで繋がり探究できるなど、授業や学校だけの学びから発展した学び ・オンライン授業やインターンシップなど積極的に外に出ていく
課題発見、探究	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切に自分事として自己の課題を発見し協働し課題を解決できる ・学んだことを課題研究につなげて地域に飛び出し課題を追究していく ・地域と協力して探究活動、興味があることをつき詰めたい、探究と協働 ・インターネットで検索できない情報を自分たちで集め（新規性）、地域課題を見つける ・地域の大人と共に学び、ふるさとに寄せる思いを培う ・仲間とともに地域に出て、自分事にする学びを深める ・当事者意識の醸成

■生徒が主人公「私は私の人生の当事者」

主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ごととして、私が、という一人称で語れる生徒 ・自分のことは自分で決める、自己決定
他者尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗しても学び続けられる雰囲気がある ・社会で働くためにバランスよく集団での規律や常識を身につけてほしい
生徒会・自治	・ 自治、生徒会活動を自立して運営する